

イスラ ムにおける家族（パ ト1／3）：イスラ ム的家族生活の魅力

4.0 集者のおすすめ

明: 々な社会的地位の人々が、イスラ ムにおける家族生活に する 点について る。

目: 事イスラ ム的システム家族

より: ベン アダム(2011 IslamReligion.com)

日 03 Jan 2011

集日 12 Feb 2023



イスラ ムにおいて、「自分自身」だけの代わりに「他人」の幸福を考 することは、それがムスリム以外の人々にも向けられるほどに明白な、宗教に非常に深く根ざしている美 の一つです。英国の人道主 者であり市民 弁 士でもある、非イスラム教徒クライブ スタッフォ ド スミス氏は、こう言明しています: 「私がイスラ ム教を に入っているのは、それが集 に して焦点を当てているからです。そして、それは 人 に して焦点を当て る西欧とは、正反 なのです。」[\[1\]](#)

社会を 成する 人は、お互いに のある集 の によって びつけられています。そして最も 力 な社会的 が、家族のそれです。そして、基本的な家族 位こそがあらゆる人 社会の基 である、と正当に主 され得る限り、このことは特にムスリムによくあてはまることとなります。 のところ、イスラ ムが家族システムに与えている 大な地位は、しばしば多くの新しい改宗者（特に女性）をイスラ ムへと引きつけるものとなっているのです。

ある 家らはこう言います：イスラ ムは、人生のほぼあらゆる 面を する法をもって、女性が健全な家庭とコミュニティの形成、そして 去30年余りに渡って いて来た世俗主 的なヒュ マニズムによって被った の修 において、重要な役割を果たすことになるという 信仰を根 とした社会秩序を提供しています。またシカゴのロヨラ大学のイスラ ム研究 科教授であり、改宗ムスリムのアメリカ人でもあるマルシア ヘルマンセンは、こう言 っています：更に、崩 した家庭の中にいる女性は、特に宗教に惹かれるかもしれませ ん。というのも宗教は、家族に を置いているからです。[\[2\]](#)

イスラ ムを受け入れて 的な家族的 を める人々のこの 潮が、北アメリカのラテン系、も しくはヒスパニック系コミュニティほどに 著な地域はありません。フロリダ州のある ムスリムは、こう述べています：「私は、ヒスパニック系の人々がイスラ ムへ改宗す る割合がどんどん 加するのを て来ました。私は、ヒスパニック系の文化そのものが家 族的 にして非常に かであると考えていますが、それはイスラ ムという宗教においても 非常に卓越している重要事なのです。」

それでは、これだけ多くの人が魅力を感じているイスラ ム的家族の特 な や特 とは、何 なのでしょう？

コロンビア大学のあるイスラ ム的イベントにおいて、エクアドル系アメリカ人のエル ナン グアダル ペは、ヒスパニック系とムスリムに固有の文化的な 似点と家族的 につい てこう 言しました：「一般的に、ヒスパニック系の家庭は 密で信心深く、また子供た ちは しい 境で育てられます そしてこれは、 ムスリムの家庭にも同 に められる特 なのです。[\[3\]](#)

またある最近の新 事によれば、次のように述べられています：「ムスリム コミュニテ ィの形成においては、家族的 が不可欠な役割を担っています。そしてこれらの家族的 ゆえに、ヒスパニック系コミュニティとイスラ ムの にはその他 山の の一致が られるの です。例えるなら、年 者への敬意、 婚生活、子供の 育などであり、ヒスパニックとイ スラ ムの には共有するいくつかの があります[\[4\]](#)」

あるの平均的なアメリカ人改宗者たちもまた、生活について言っています。そして、それらの内のいくつかはそのような改宗者らの母とも言うべき人物キャロル L アンウェイによって、一の本 *Daughters of Another Path*

(もう一つの道の娘たち)」にまとめられました。この本の中で引き合いに出されているある女性は、婚と家族生活にするイスラム改宗の彼女の化について、こう言っています[5]

：「私は宗教により倒すればするほど、より清でより静かになりました。私は、非常に律正しくなりました。イスラム改宗前には婚するつもりなどなかったにもかかわらず、私はあっと言う間に一人の妻、そして母になったのです。イスラムは、私が既に持っていた虚しさ、切、情などのような信仰を表すための、一つの道を提供してくれたのです。またそれは婚と、2人の子供たちの生を通して、私を幸福へと導いてくれました。イスラム改宗以前、私には自分自身の家庭を持ちたいなどという望がありませんでした。というのも私は、子供を持つなどという考えを毛嫌いしていたからです。」

またの女性は同著の中で、大家族の中へと受容されたことについて、以下のように言っています：「私たちは空港で、彼の多くの家族に出会いました。そしてそれは私が忘れて忘れることの出来ない、非常に感動的な瞬間だったのです。母（母）は天使のようでした…私はここで私が目にしていることのために、多くのことをと共にごしてきました。その家族体系は近性によって非常にユニークなものとなっており、舌に尽くしがたいものだったのです。」[6]

また同著の付録Cでは、ムスリム14年になる35才のアメリカ人改宗女性が、彼女自身のアメリカ的感覚と比しつ彼女の夫の家族と彼らの感覚について、こう言っています：「私は、私の夫の肉のメンバー全と、彼の大家族のメンバーの一部に会いました…私は、私の姻戚から山のことを学びました。彼らは、彼らの子供たちとの絆を保つ素晴らしい方法、つまり他者への敬意と多大なる自尊心を築く方法を持っていたのです。子供重視の文化と宗教重視の文化がいかに作られるかということを知ることは、味深いものがありました。私の姻戚はアメリカ文化とは正反対の美しさによって、私のアメリカ文化的なアイデンティティにおける特定の要素に気づき、私に非常な理解を与えてくれました…私はイスラム教の言う、中庸こそが正しい道であるという教えは、本当に正しいのだということを知

[5] *Daughters of Another Path*, 4th printing, Al-Attique Publishers, p.81.

[6] *Daughters of Another Path*, p.126.

[7] *Daughters of Another Path*, p.191.

[8]

この 承は 言者の小 使いをしていた教友アナスによるもので、イマ ム アル=バイハキ がその著「信仰の支」の中
トしているものです。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/387>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。